



とんど祭り



ボランティアの方々、祭り担当班長さま、役員のみなさま、1月8日今期最後のとんど祭りイベントが生憎の雨で水をさされましたが、お風邪をひかなかつたでしょうか？

とりあえず今年度のイベントは、皆様方のご協力を得て終了することができました。

本当にありがとうございました。



祭り担当副会長
永井 勲

とんど祭りの「とんど」とは：

火が燃え盛るさまを表現した言葉とのことで。基本は青竹、藁、檜の枝などで作った櫓（とんど）に火をつけてその火で、その年飾った門松や正月飾りなどを燃やします。

これはその年に宿った年神様を炎と一緒に見送るという意味があるそうです。

字が上達しますように、と祈るために書き初めを燃やすこともあります。

由来は：

鎌倉時代には行われていたと言われますが、平安時代の宮中行事「左義長（さぎちょう）」を起源とする説が有力です。

平安時代宮中では正月の15日に、青竹を束ねて毬杖（ぎっちょう）三本を結び、その上に扇子や短冊などを添え、陰陽師が謡いはやしなから焼くとゆう行事が行われていました。



その年の吉凶を占ったと言われるこの行事は、毬杖3本を結ぶ事から、三毬杖（さぎちょう）呼ばれました。

これが民間に伝わり、現在の形になったと言われています。

